

6月22日の歴史研究会の発表要旨

佐渡金山における朝鮮人戦時労働

西岡力

朝鮮人戦時動員は戦争遂行に必要な労働力を朝鮮から内地に集団渡航させたものだ。当時、内地では徴兵のため若年労働力が払底し、賃金が急上昇しており、朝鮮から内地へ出稼ぎ渡航をしたいと考える者たちが多数いた。戦時動員が始まる前、朝鮮人の日本渡航は厳しく制限されていた。1939年の戦時動員は制限の例外として始まった。

制限を少し緩和してしまっただけで、雪崩のような日本渡航が始まった。その結果、動員された人数60万人の約3倍の180万人が個別に渡航した。その上、動員現場からも2から3年の契約期間が終わる前に逃亡してより条件の良い事業所に転職する者がなんと4割に上った。戦時動員をしたにもかかわらず、実際は25%しか統制できていなかったのも、これは政策の失敗と言っても良い。

佐渡金山における朝鮮人労働もこの枠組みで理解されるべきである。待遇も差別がなく、歩合制の賃金は当時の水準からするとかなり高かったことなどを証明する一次史料が多数ある。